令和元年度第2回花卷市立図書館協議会 会議録

1 開催日時

令和元年 11 月 26 日 (火) 午前 10 時 00 分~午前 11 時 45 分

2 開催場所

花巻市立花巻図書館 会議室

3 出席者

(1)委員(8名)

菊池一英委員、阿部久幸委員、門馬優子委員、高橋則子委員、熊谷恵委員、 坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、白藤祐三委員

(2)事務局(8名)

藤原生涯学習課長、梅原花巻図書館長、小原大迫図書館長、 火石石鳥谷図書館長、菊池東和図書館長、久保田花巻図書館副館長、 伊藤花巻図書館業務係長、黒澤石鳥谷図書館主査

4 欠席者

2名(市川泝委員、佐々木さつき委員)

5 傍聴人

3名

6 議題等(議事録)

- ◎会議成立の報告(久保田花巻図書館副館長)
 - ・委員10名中8名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えているので、花巻 市立図書館協議会規則第7条により、本会議が成立することを報告。
- 1 開 会(久保田花巻図書館副館長)
- 2 あいさつ (坂本会長)

おはようございます。気候が暖かかったり、今朝のように冷えたり、翻弄されております。どうぞお体を大事になさってください。事前に配付いただきました 資料のあちらこちらから、新しい図書館の早い建設が望まれていると、ひしひし と感じられるように思いました。そのことを願いつつ、本日は充実した会議になりますよう、皆さまのご協力よろしくお願いいたします。

(○久保田花巻図書館副館長)

ありがとうございます。それでは協議会規則第6条によりまして、議長は会長となりますので、以後の進行よろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

それでは、早速議題の1番目「令和元年度花巻市立図書館の事業実施状況等について」事務局よりお願いいたします。

3 議 題

- (1) 令和元年度花巻市立図書館の事業実施状況等について
 - ・令和元年度花巻市立図書館の事業実施状況について、(令和元年10月末までの実施状況を)花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻:伊藤花巻図書館業務係長、大迫:小原大迫図書館長、石鳥谷:火石 石鳥谷図書館長、東和:菊池東和図書館長

(質 疑)

(○坂本会長)

各館から事業等について説明をしていただきました。これについての質問は、 ございませんでしょうか。質問等ございませんか。それでは、ご意見がございま したならお願いいたします。とてもいろいろなことを工夫しているという思いが したのですが、よろしいですか。

それでは、2番目の「図書館の来館者アンケートの結果報告について」お願いいたします。

- (2) 図書館来館者アンケートの結果報告について
 - ・令和元年度実施の図書館来館者アンケートの結果報告について、梅原花巻 図書館長から説明。

(質 疑)

(○坂本会長)

とてもわかりやすく集計をしていただきまして、ありがとうございます。この アンケートの結果について、いかがでしょうか。ご質問、ご意見合わせて、お聞 きしたいと思います。

すみません、ここにいるのですが、アンケートの40番「新しい本が入ったときのお知らせ」についてです。以前は階段の踊り場のところに本のカバーで(お知らせが)貼ってあり、とてもインパクトが強かったのですが、アンケートの回答

欄に、その表示方法では「著作権の問題がある」というようにありますが、内容 を教えていただけますか。

(○梅原花巻図書館長)

以前は、本のカバー(表紙)をそのままコピーし、お知らせしていたようですが、表紙をそのままコピーして貼るということが、著作権違反に当たるのではないかということで、現在はやっておりません。

(○坂本会長)

カバーそのものを貼るのはいいけど、コピーし貼るのはだめということなのですよね。

(○梅原花巻図書館長)

カバーそのものを掲示するとしても、取ってしまうとその本のカバーがなくなってしまいますので。

(○坂本会長)

そうか。二冊あれば、一冊は・・・・そうか、なるほど。

(○梅原花巻図書館長)

そういった制約がありますが、アンケートでご意見をいただいてすぐに司書と 相談し、何かほかにできることはないかを考えているところです。

(○坂本会長)

次にホームページについてですが、確かに(自分の見たいページに)たどり着くまで、結構大変ですよね。それで、途中で挫折して「もういいや。図書館へ行ったほうが早い」と思うことがあるのですが、やはり図書館へ直接行って、IDを登録してもらわないと、本の予約はできないというのがありますよね。その辺のところを図書館の中にもわかるように、掲示しておいてはいかがでしょう。図書館に足を運んだときに、IDの登録をしておけば、(インターネット等で)予約ができるということが、皆さんもわかるのではないかと思います。

(○梅原花巻図書館長)

会長のご意見を活かしたいと思います。インターネットから本を予約するときに、IDがなければ本人でなくても誰でも予約できてしまいますので、その人を認識するためにID入力は必要なことなのですが、利用するためには最初に登録が必要ということを、ご存知ではない方もいらっしゃると思いますので、周知していきたいと思います。

(○白藤委員)

秋になると読書週間や図書館に関する新聞記事が、随分と多くなってきます。 佐藤委員さんも絵本や読み聞かせについて、新聞に書いていらっしゃいました が、(最近新聞を読んでいて)特に目についたのは『「知の宝庫」の活用期待』 (令和元年10月17日、岩手日報「日報論壇」)という、奥州市の方が書いた新聞記事です。本当にその記事のとおり"知の宝庫の活用期待"ということで、奥州市の図書館利用者アンケートの結果をとらえて、利用者の満足度ですとか、図書館の行事が「わからない」という回答が多いとか、利用者の年齢的には、70歳以上の男性が女性に対して1.7倍になっているとか、回答者の性別は男性が女性の割合よりずっと低いとか、特徴のあるところをまとめておりましたが、これも図書館への"期待"とそれから"指摘"されている部分だと思います。

それから、11月に遠野市が「こども本の森構想推進準備室」を新設するという記事(令和元年11月10日、岩手日報)が出ました。2年ぐらい前ですか、建築家の安藤忠雄さんが、大阪にこども図書館(大阪市北区「こども本の森中之島」)を自費で建設し、名誉館長にノーベル賞の山中伸弥さんに就いていただくという構想もありましたが、遠野市でも安藤さんを呼んで講演をし、その中で「東日本大震災からの復興のシンボルと言える子供たちの未来のため、本の施設を設けてはどうか」と安藤さんが提案したことがきっかけになり、遠野市は早速これを手がけたということです。その取り組みの姿勢にすごく感心しました。花巻でも新しい図書館に、このようなコーナーの充実というものをしてもらえるといいなと思いました。

最近読んだ本に、読売新聞社盛岡支局で40年前に発行した『啄木・賢治・光太 郎―201人の証言―』という、啄木・賢治・光太郎に係わった120人ほどの方が証 言した記録集がありまして、今まで気付かなかった郷土資料の一つで非常に貴重 なものでした。同世代の人たちが一緒に暮らし、一緒に学び、いわゆる花城小学 校から盛岡中学校、盛岡高等農林学校、そして花巻農学校の教え子の方々、本が 発行された昭和51年当時でも70歳、80歳の方々でしたが、とても新鮮な感じがし ましたし、地元の人間としては、賢治さんや光太郎さんがまた一段と身近な存在 になったと思いますので、できればこういった図書も、市内の方々には特に目を 通していただければいいなと思いました。また、新しいところでは図書館叢書刊 行委員会という、11年前に4館共同で取り組んだ本(『花巻の昭和の記憶』) が、三冊発行されています。その刊行委員会の委員長は、合併前の石鳥谷町教育 長の菅原昭造さんで、4館の図書館職員や各地域4市町の方が7人ほど編集委員 になっていました。昭和の初期から平成20年までのこの地域の歴史を、たっぷり といろいろな方々から執筆していただいている本を読んで、改めてこの地域のこ れまでの話題、あるいは人物を知る機会となりました。読売新聞社の本も『花巻 の昭和の記憶』も市立図書館4館に全部ありますので、できるだけこれを活用し ていただきたい、いろいろな人に見ていただきたいと思います。どちらの本も現 代の人たちが、これまでの花巻の歴史や啄木、光太郎、賢治を理解し、それを次

の世代に伝えるというような趣旨が非常に強いので、私も改めて勉強する機会になりました。特に『花巻の昭和の記憶』は、昭和の初期から戦後、それから平成にかけての花巻の記録で、この本が一番わかりやすい。私たちの世代で、共感する部分が非常に多かったので、花巻市民の皆さんに多く読んでいただきたいし、それを次の世代に何とか伝える方法を工夫していただきたいと思っています。そういった意味で、図書館もそれらの郷土資料をできるだけ皆さんにお知らせする、活用してもらう、読んでもらう取り組みをしていただけるといいかなと思っております。

あと一つ花巻図書館で気がついていることは、2階に"ユースコーナー"や企画展または通年でその時期ごとの話題になっている図書を紹介しているコーナーがありますが、そこには中学生や高校生はほとんど来ません。見せたい本がいっぱいあるのですが、非常に残念な気がしています。スペースの問題がありますのでこれは新しい図書館に期待するしかないのですが、高校生はほとんどまなび学園のロビーに行っていて、図書館を利用することはないでしょうし、中学生や、あるいは親御さんが気づいて、子どもに進めてくれるといいのですが、せっかくある図書が、十分に行き渡っていないというのが非常に残念ですので、これからの課題にしていただけるといいかと思います。

(○坂本会長)

ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございました。 ほかにございませんでしょうか。

(○白藤委員)

すみません、もう一つありました。前にお話ししたことがありますが、新聞の活用です。石鳥谷中学校で、今年読売新聞のNIE運動に取り組んだようですが、「家庭で新聞を取っていますか?」それに対しての回答が「40%取っていない」とかですね。それから新聞を取っている家庭でも読んでいないという子がいる。それを今年読売新聞と提携し、新聞各社の協力があって、新聞8誌を子どもたちが読み、その読んだ結果を発表するという取り組みをしたようですが、(私もすごく新聞は大事にしていますが、)そういう取り組みは非常に貴重だなと思いまして、ぜひ先生方には、そういった取り組みをしていただければいいなと思っています。

(○坂本会長)

ありがとうございました。今の数字はびっくりしました。4割の家庭で新聞を取っていないというのは、ちょっと驚きですね。

(○白藤委員)

名前はあまり申し上げませんが、『花巻の昭和の記憶』第三集に門馬委員さん

も、あと青少年の育成の部分に、市川委員さんの名前がありました。

(○坂本会長)

ご質問ご意見ありませんでしょうか。

それでは、議題の3番目の「その他」のところで「令和2年度図書館運営に関する要望等について」、皆さまからのご要望をお伺いするということだと思いますが、事務局からご提案をお願いいたします。

(3) その他

・令和2年度図書館運営に関する要望等について 令和2年度図書館運営に関する要望等について、梅原花巻図書館長から 説明。

(質 疑)

(○坂本会長)

ありがとうございます。それでは来年度の要望について、菊池委員さんから順番にご意見を頂戴したいと思います。

(○菊池委員)

子どもたちに読書に親しんで欲しいというのはその通りなのですが、例えば小 学校の立場から言いますと、子どもがいきなり公共図書館には行けませんし、行 けないと思います。それは当然のことでして、もちろん子どもは小さいですし、 地理的なものもありますから、「小学校としては本に親しむことを学校としてや らなければいけない」ということで、例えば、このような公共の図書館協議会に 参加させていただいているわけですが、各4館で実施されているいろいろな取り 組みは本当に参考になります。湯口小学校では、2学期子どもたちに本を読ませ るためにビンゴゲームをしたり、いろいろな本にいろいろな物を挟めておいて読 ませてみたり、いろいろな工夫をこの図書館協議会から参考にして試みていま す。本当にありがたいと思っています。学校独自に図書館の専任職員がいるわけ ではありませんし、つきっきりで子どもたちに読ませる工夫をどうしたらいいだ ろうかというのは、実は難しいことなので、図書館のいろいろな取り組みを参考 にさせていただいて、少しでも面白そうなものを子どもたちに試みるということ ができて、本当に助かっています。ありがたいと思っています。それから、読み 聞かせについては、ボランティアさんに頼っている部分はありますが、(学校と しても)やはりどうしたら読ませられるだろうと考えております。実は今週やっ たばかりなのですが、教員が自分で本を選び、全校児童に対して読み聞かせをし ました。コーディネーターさんにお願いして、読み聞かせのための本を公共図書 館から選んでいただくなどいろいろなことをやっています。そうして子どもたち が本に親しみ育っていった結果が、たぶん「公共図書館に行ってみよう」という ようになるのかなと思います。

もう一つは、もっと小さいうちに親御さんが、読み聞かせをしてくださることがとても大事なところだと思っております。本当に小さいころに読んだ絵本、絵本の中身が、その後の人生に大きく影響していく。岩手日報に、佐藤委員さんも書かれておられましたよね。本当にそう思います。そういう読み聞かせを親御さんに、学校としてどう働きかけていったらいいか、工夫して読ませたらいいかというのは難しい問題で、そういうところをお互いに工夫しながら、参考にしながらやっていけるといいのかなと思っています。そういう意味では令和2年度の要望につながっていきますが、どうしたら今の小さい子どもの親御さんたちに、本の魅力を逆に伝えて、それが子どもたちの読み聞かせにつながっていくかという取り組みを工夫していただけると、それも学校と連携しながらやっていけるのかなというように感じているところです。

実は校長会で今週の金曜日に、末盛千枝子さんを(講師に)呼んで講演会を行いますが、"絵本をどうやって子どもたちに伝えていくか"という中身でお願いしており、いい参考になるかなと思っております。私たちの企画なので、一般の方方を対象にしてはいないため、(皆さまに参加いただけず)残念なのですが、できれば、そういう企画を公共図書館でもやっていただいて、講演を聞いて本に興味を持って買う・読むという場合もありますし、本を読んでみてこの人の話しを聞いてみたいということもありますので、そうした企画をどんどんしていただけると助かるなと思っています。

(○坂本会長)

ありがとうございます。阿部委員さんお願いいたします。

(○阿部委員)

中学校は小学校ほど読書に親しむ時間を、なかなか取れないでいるというのが正直なところです。ただ、そうは言っても、やはり私たちもとにかく生徒たちに活字に触れさせる時間を取ってあげたい、取りたいというように思っておりますので、中学校としてやっているのは、朝の時間に朝読書の時間を設定し、生徒たちが半強制的ではあるのですが、自分たちの家から、あるいは学校や図書館にある本を持ち出してきて、朝その本に触れる・読むというような時間を取っております。それから、新聞に関しては、全部の教科で取り組むことはできませんが、家で新聞を取っていてもなかなか生徒たちは新聞を読みませんので、当校の社会科教諭ができるだけ生徒たちに、新聞記事を読ませるように新聞記事の一部分を切り取ったものを、授業の一番初めに生徒たちに配布し、それについての感想や思いをまとめることを定期的に続けています。そうでもしないとなかなか生徒た

ちは、活字に触れるという時間がないのかなと思っているところです。

ここから先は余談になりますが、私は中学校に勤めていますが、7~8年ぐらい前に岩手大学で2年間ほど教員を目指す人たちを相手に、いろいろお話しをした時期があります。そのときに、やはり教員を目指すからには、一日1回ぐらいは新聞に目を触れるようにして欲しいということで、必ず講義の最初に「新聞の記事を切り抜いたものでもいいので、それを貼って自分の感想を書いたものを出すこと」といった課題を課していました。先ほど家庭で40%ぐらいの方々しか新聞を取らないと言っていましたが、学生さん、しかも教員を目指す人たちであっても、自分で新聞を取っている人は一割もいませんでした。確かに私が学生のときにも、ずっと新聞を取っていたかなというとちょっと"?"のような部分があるのですが、今はネットなどで知りたい情報はある程度手に入るので、わざわざお金を出して新聞を買わなくとも情報は手に入るという理由もあるのかもしれません。あとは御礼になりますが、中学校側でいうと図書館に職場体験のところで、いろいろお世話になっていると思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

ありがとうございます。門馬委員さんお願いいたします。

(○門馬委員)

私自身も参加させていただいて、いろいろ気がついたことがありました。この資料を見てもわかるとおり、図書館それぞれ様々な工夫をし、いろいろな興味を引く企画をするなど、すごい努力をなさっているなと思います。ただそれがなかなか一部の人にしか浸透していなかったり、参加者がいつも偏ったりしているのは、本当に残念なことだと思います。図書館が気を吐いて、文化の発信といいますか、そういうことをしていかないと、どこがするのだろうと思いますし、やはり図書館が一番そういう旗振り役になり、先頭に立ってやっていかなければいけないのではないかと改めて思いました。また、敷居が高くても、何か一つ自分が参加するきっかけがあれば、それをもとにして新しい図書館への興味が湧くというそういうことになるのではないかと思いました。

かるたづくりにしましても、図書館の職場体験に参加している中学生さんが、 ちょうどその時期に職場体験をされていたので、かるたを書いていただいたら、 いろいろ迷って書かないのではないかと思っていたのが、子どもの可能性という か感性というのはすごいなと思いました。改めて私たちが固定観念で子どもたち を見てしまったり、子どもに限らず他人さまに対しても、固定観念で感じてしま ったりしていることは、意外と多いのではないかなと思いました。図書というも のを通じて、自分たちの視野をもっと広げていかなければいけないなということ を改めて思った次第です。

(○坂本会長)

ありがとうございます。高橋委員さんお願いします。

(○高橋委員)

資料を読みまして、私は図書館の仕事というのは幅が広いのだなということを いつも感心しております。今回出していただいた資料を見て、「もっと図書館に 来て、私自身も見ていなければいけないな」ということをつくづく感じました。 図書館にかなり行っているのですが、やはり見逃していることのほうが多いよう な気がしております。図書館だけで子どもにたくさん本を読ませるという事業は これは大変な・無理なことで、町全体・市全体が、みんなが本を読めるような環 境ということを図書館からだけではなくて、もっと上の部分から発信するところ があっていいのではないかなと思います。花巻は、特に"宮沢賢治の町"というこ とになっているわけですが、なかなか「あれは一部の人がやっていること」のよ うな雰囲気があるので、ぜひすばらしい作品をもっともっと多くの市民の人たち に感じて欲しいと私はずっと思っております。私は読み聞かせをして回っていま すが、最近、「あそこの学校は読み聞かせに行っても話しを聞かない学校だ」と か「生徒の状況が、あそこはダメで聞かないから、行かないほうがいい」という ような話しが仲間から聞こえてきます。それは急に話しを聞かない子どもたちが 出てきたのではなくて、長年の積み重ねかなと思って聞いていますが、本当に小 さいころから、もっともっといいものをいい声で聞かせる場、そういうものが欲 しいものだなということを思います。そうすれば、そのうちみんな人の話しを聞 くようになるのではないかと思っております。やはり心地よい声というのは、あ るものですよね。心地よい声、本を読んでいて、この人の声を聞いていると気持 ちいいなと思う声と、この人の声を聞いているとイライラしてくるなという声が あるのです。朗読する人たちの声というのは、非常に心地よい声だなと思ってお ります。それから、最近いい本を読んでくださっているのに、バックミュージッ クがうるさくて、肝心の本の中身が聞き取れないといいますか、わからないこと も多々ありますので、じっくりと話しが聞ける場がちょこちょことあって欲しい ものだなと思っております。私たちのグループでは、朗読会をずっとやってきま したが、しばらく休んでおります。朗読会をするために、資金が必要になりお金 がかなりかかるので、今少し考えておりますが、やはり朗読会というのは、地域 にとっては大切なものだといつも思っております。だから図書館だけに押しつけ るのではなくて、もっともっと地域の人たちが、参加するのもよし、または読ん でくれるのもよし、というようなことで地域がもう少し盛り上がるには、一体ど うしていけばいいのか、本当に考えていかなければいけないのではないかと思っ

ておりますが、なかなか難しい。

また、このアンケートを読んでいて、「こんなことアンケートに書くのか」というような中身の意見もあったので驚いております。もう少し建設的な意見のものがあっていいなと思っております。

(○坂本会長)

ありがとうございます。それでは、白藤委員さんお願いいたします。

(○白藤委員)

一つだけ報告を兼ねてですが、先月アイーナ(岩手県立図書館)で図書館職員・図書館協議会委員の合同研修会がありました。「超高齢社会と図書館」というテーマで、身に迫る問題でしたので私も行ってきたところ、これは切実な問題のようで、筑波大学の図書館情報メディア系の教授が講演してくれましたが、

「認知症にやさしい図書館ガイドライン」という資料まで提出されました。これは、これからの図書館の新しいテーマだなと思っています。ユースコーナーも大事ですが、この高齢者のコーナーも大事にしなければいけないのだなと思って帰ってまいりました。

(○坂本会長)

ありがとうございます。佐藤委員さんお願いいたします。

(○佐藤委員)

施設見学についてですが、私がたまたま石鳥谷図書館に行ったときに、八幡小学校の児童さんがいらっしゃっていて、職員がいろいろと説明されていたのですが、説明するたびに子どもたちが「ワーッ」とか「エ〜ッ」とか言って、読書おもいで帳を印字してみせたら「エ〜ッ」とか「すご〜い」とか言っているのを見て、こんなふうに喜んでくれるのかと思い、その子どもたちをほぼ笑ましく見たあと、湯本小学校の児童さん、子どもたちの(施設見学の)感想が(図書館内に)貼ってあるのを見ました。そしたら「図書館で働きたいな」とか「また来たいな」とか書いてあって、その子たちの姿をその親御さんに見せたいと思いました。図書館に連れてくると、こんなに子どもは喜ぶという姿を親御さんに知って欲しいです。それを知ってもらうには、どうしたらいいだろうということを学校図書館支援員の先生にも「先生から発信とか何かできない?」「何かできることがあるのでは?」というようなご相談をしました。

(○坂本会長)

ありがとうございます。熊谷委員さん、お願いいたします。

(○熊谷委員)

資料を拝見して、各図書館が本当にいろいろと考えて、いろいろな行事を年間 通して行っていることに、まずお礼を言いたいと思います。それに対して、どの

くらいの人たちが利用しているのかということも資料に書いてありますが、本当 にもったいないなという気持ちでした。私は東和小学校で読み聞かせのボランテ ィアをしています。(門馬委員さんもされています)月に約1回、朝の8時15分 から30分まで、各教室にボランティアの人たちが入ると、通常の先生方とは違っ て、おばちゃんだとか、どこかのお母さんだとかという方が読み聞かせをすると いうことで、中にはどうしてもこう体を動かしながら、話しを聞けないといった お子さんもいるのですが、ほとんどの子どもたちが、目を輝かせて絵本に集中し てくれています。私は、一冊の本を読みながら、その子どもたちの反応がとても 楽しくて、どうしてもこのボランティアをやめる気になれずに、いくつになって もやっていたいなという気持ちでやらせていただいています。また、今もあると 思いますが『母の友』という雑誌に、50年~60年ぐらい前ですか「小さいときに は、その子の背丈分だけ絵本の読み聞かせをしてあげてください」というような ことが書かれておりました。例えば、まだ本当に小さいときは子どもの背丈分、 そして言葉というか絵本でその子の畑を耕すことによって、その子どもたちは真 っすぐに育っていくということが書いてありました。私はそれを見て、うちの子 たちにもそのようにしようと思い実践してきました。実は私の孫なのですが、中 学に入りましていじめに遭いました。本当に個人的なことなのですが、「おばあ ちゃん、嫌な子が、意地悪する子がいるの」ということを聞いたときに、私の孫 は大阪に住んでいるため、そばに行って支えることができないので、「そういう ときは本を読んでいればいいのよ」と本を読むことを進めたら、例えば授業と授 業の間の10分休みは、図書室に行くことはできないのですが、自分の机のところ で本を読んでいればいいのだというように、いつも本を読んでいたらしいので す。この間来たとき、今二年生になったので「どお?」と聞いたところが「いじ められることが、あまり気にならなくなった」ということを言っていました。今 は本当に陰湿ないじめというものがあります。そのときの例えば先生のところに 行って、受けとめてもらえればそこでいいのですが、どうしてもそういったこと ができないような子には、やはり「本の世界の中に逃げ込みなさい」ということ で、私はすごく「あっこれで救われたな」と思います。いまだに私も息子には 「目を離さないでよ」ということを言っているのですが、そうやって本を読むと いう、図書館・図書室に行くというような形になって、とても救われました。私 も毎回は図書館のいろいろなイベントに参加できないのですが、このように図書 館そのものが、いっぱいいろいろなイベントをして、発信してくださっていると いうことが、もしかしたらいじめられている子どもたちの、少しは心の救いにな るのではないかなと思います。今、スマートフォンで本も読めるので、確かに知 識は入るけれど、あのスマートフォンの小さな画面で文字を追って読んだ気にな

っているよりも、きちんとした本を見て、それの活字を読むということの大切さ を、学校の先生方もどんどん子どもたちに話していただきたい。おっしゃってい るだろうとは思いますが、お願いしたいと思いますし、図書館からもどんどん発 信していくということをお願いしたいと思います。

(○坂本会長)

ありがとうございました。"いじめを考える日"に石鳥谷では関連図書展も行われたようです。それで、やはりそれも一つの方法だろうなとすごく思いました。 私からは、来年度に向けて、新しい図書館にいっぱい期待したいと思います。 それでは、佐藤委員さんが資料を用意してくださいました。参考資料についてお願いいたします。

(○佐藤委員)

はい、お忙しいところ、お時間をいただきありがとうございます。5月31日に行われた「令和元年度花巻読書ボランティアネットワーク協議会」での参加資料について、4分程度お話しをさせてください。よろしくお願いします。

お手元の資料3枚のうち一番後ろの下に4とページ数が打ってあるものをご覧 ください。学校図書館ボランティアグループの活動内容の棒グラフを見ますと、 花巻市内小学校の95%で"読み聞かせ"が行われています。ページをめくって5ペ ージは、学校図書館ボランティアグループの活動がもたらす効果についての調査 結果です。「児童・生徒の図書館利用回数が増えた」「読書冊数が増えた」と回 答した学校は10%程度です。この結果を単純な見方で解釈しますと、ボランティ アによる活動が、読書推進に効果があるとする小学校は10%程度しかないことに なります。ボランティアをしている者にとっては非常に厳しい評価です。『小・ 中学校ともに「読書への興味関心が高まった」「図書館がきれいになった」「教 師の負担が軽減した」と回答した学校が多かった』とあります。私たちボランテ ィアは、学校図書室の本を並べ直しますし、先生に頼まれれば寄贈本のバーコー ドシールを貼りカバーかけもします。ページが外れたり壊れたりしている本を修 繕します。お忙しい先生方に代わって、私たちがすることによって、本が放置さ れることなく本棚に並び、子どもたちの手元に早く届き、貸し出しにつながると 信じているからです。昨年度、石鳥谷小学校では、朝の読み聞かせを年9回月曜 日に企画しました。在校保護者の読み聞かせボランティアは3名なので、私を含 め卒業生の母親が加わり、花巻市のボランティアの"こども広場・マグノリア"さ んやストーリーテリングの"おはなしのろうそく"さんにも応援をいただきまし た。4年前の平成27年、矢巾町で中学生が、いじめが原因で自殺しました。当時 のボランティアメンバーの中には、児童民生委員や青少年の育成に係わる活動を している方もいらっしゃって、私たちの地域から「いじめをなくしたいよね」と

いう話しが出ました。石鳥谷には本屋がありません。図書館は石鳥谷小学校の学区外です。そのような環境ですから、本が苦手な子どもたちも、耳から聞かせればお話しをよく理解して楽しむことができるのではないか、それが本を手に取るきっかけになるのではないかと考えています。月曜日の朝、学校へ行きたくない子どもたちがいるかもしれません。活動を継続していれば、今日はボランティアの読み聞かせがあるから、学校へ行こうと思ってもらえるかもしれません。学校へ行ったら、またあいつをいじめるぞと思って学校へ来た子どもたちが、私たちの読み聞かせを聞いて、いじめたい気持ちを収めるかもしれません。読み聞かせとは、そういう可能性を秘めた、目に見えない働きかけができる活動です。学校がボランティアを目に見える項目で一方的に評価するのではなく、ボランティアの活動に対して、学校側の気がついたことがあれば、助言していただきたいですし、図書館にはこれまでどおり、研修会などでボランティアを導いていただきたいと思います。"子どもに本を"という一つの目的に向かって、学校と図書館とボランティアと家庭が、連携していけるように努力していきたいと思います。

(○坂本会長)

ありがとうございます。ボランティアと学校のより強い連携というところで、 ご提案いただいたと思います。これに関してご意見はございませんでしょうか。

(○菊池委員)

厳しいご指摘をいただいたなと思いました。ありがとうございました。

(○坂本会長)

(菊池) 先生ありがとうございました。それでは、ここまでの議題なのですが 振り返ってみてお話ししそびれたというようなことがございましたら、お願いし たいと思います。

それでは議題はここで終わらせていただいてよろしいですか。それでは、大きなほうの「4 その他」で生涯学習課長お願いいたします。

4 その他

(○藤原課長)

生涯学習課の藤原でございます。先ほど坂本会長からお話しをいただきました新花巻図書館の関係でございますが、以前もお話ししましたとおり、アクセスのいいところということで、JR花巻駅の東口ということをお話ししていたかと思います。今、関係機関と条件等の協議をしております。いずれ近い将来に、こういった形でということをお示ししなければならないと思ってございます。お示しするに当たっては、市議会に説明するとともに、市民の方々にもお示ししたいと思います。

今回いただいたアンケートにつきましても、つぶさに検証する必要があるのではないかと考えてございます。例えば、「新花巻図書館に思うこと」の設問に『花巻の先人の顕彰』という意見があったということは、これの裏返しには『先人の顕彰がなされていない』と思っている方がいるという、その裏側の部分を検証しながら、アンケート全てに対してこれを反映した形で図書館に活用できるかどうかはまた別の話しではございますが、少なくてもここに挙げられたようなアンケートの課題については、いろいろ検証して、それをよりよい形で案を練って、そしてお示しできるように進めてまいりたいと思いますので、どうぞ皆さんのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

ありがとうございます。

早く形が見えてくるといいですね。それではほかにございませんでしょうか。 では事務局のほうにお返しいたします。

(○久保田花巻図書館副館長)

はい、ありがとうございました。それでは、あと特に何かなければ、終了したいと思います。

5 閉 会(久保田花巻図書館副館長)